

学校だより 9月号

令和5年8月28日



横浜市立義務教育学校

緑園学園

RYOKUEN COMPULSORY EDUCATION SCHOOL

横浜市泉区緑園五丁目28番地 前期課程 ☎045 (811) 6710 後期課程 ☎045 (811) 6030

義務教育学校の強みを生かして

前期課程副校長 丹野 一郎

38日間の夏休みが終わり、少したくましくなったように見える子どもたちの姿が、また学校に戻ってきました。日頃から、登校時に正門や緑園4丁目の交差点付近に立っていると、あいさつを交わすことはもちろんのこと、お家や習い事のことを話してくれたり、ときには、大切そうに抱えている虫かごの中のカマキリやクワガタを見せてくれたりするなど、子どもたちと楽しいひと時を過ごすことができます。おそらくこのような様子は、一般の小学校でもよく見られることだと思います。

しかし、本校は義務教育学校なので、続けて、後期課程（中学校）の子どもたちが登校してきます。そうすると、（今度は若干低い声で、）あいさつを交わすことはもちろんのこと、「今日は単元テストなんです」「昨日は、〇〇中学校に遠征しました」「1年生、めっちゃかわいいですね」など、後期課程（中学校）の子どもたちともコミュニケーションをとることができます。このように、小学生から中学生まで（1～9年生）の子どもたちとコミュニケーションをとることができるということは、義務教育学校ならではの強みだと思います。楽しいひと時も2倍になります。夏休み中にも、メイングラウンドでは野球部、メインアリーナではバスケットボール部やバレーボール部の練習試合を観戦することができました。また、華道部の皆さんが生ける鮮やかなお花を、いつも職員玄関で観賞することができます。このように、一般の小学校では体験できないようなことを、本校では体験することができます。

開校から1年と5カ月が経ちました。これまで、義務教育学校の強みを生かして、全職員で試行錯誤しながら小中一貫教育の推進を図ってきました。主なものとして下のような取組があげられます。

- ・9年間の系統性・体系性に配慮がなされている教育課程の編成
- ・独自教科「表現・未来デザイン科」を創設し、表現力などの資質・能力を育成
- ・9年間で見守る児童生徒指導体制と特別支援教室の充実
- ・一体型施設の特長を生かした異学年交流（文化祭、たてわり活動など）の実施
- ・一体的な教職員の組織（校務分掌）を構築し、「one team 緑園」として教育活動を展開

しかし、まだまだ可能性や課題はあります。例えば、前・後期課程の教職員が互いの教育課程を理解した上で、指導内容・方法を協働で検討し、前期課程と後期課程の間で、実際に教員が乗り入れて授業をすることや、子どもたち一人ひとりに関して、第9学年まで計画的に情報共有を行うことで全職員が子どもたちの状況を把握し、共通の認識をもって子どもたちへの指導を継続的に行っていくことなどができれば、資質・能力の育成のさらなる充実につながると思います。前期課程の職員は前期課程の子どもたちだけ指導すればよいのではなく（後期課程の職員も同様に）、本校では、「9年間で子どもたちを育む」という意識をこれまで以上に高めていきたいと思っています。

今後も、義務教育学校の強みを生かして、先進的かつ特色ある取組を発信していきます。夏休み明け以降も、本校1～9年生の子どもたちへの温かいお声かけや励ましをよろしくお願いいたします。